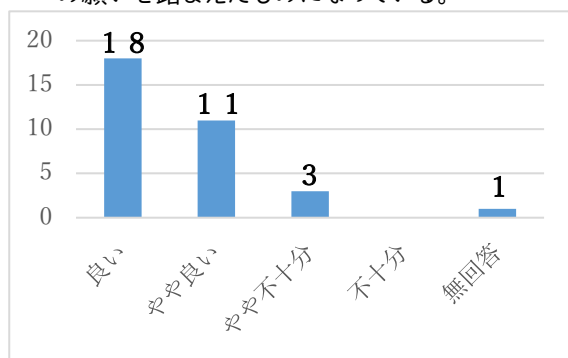
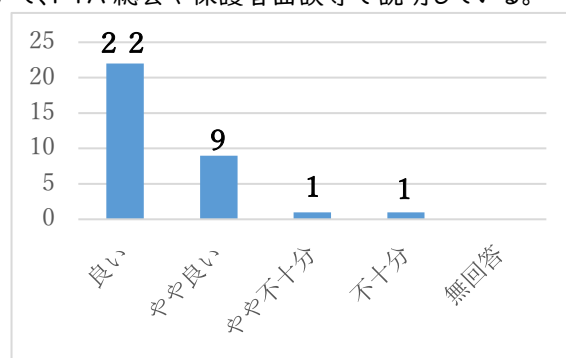


令和6年度学校評価集計【保護者】

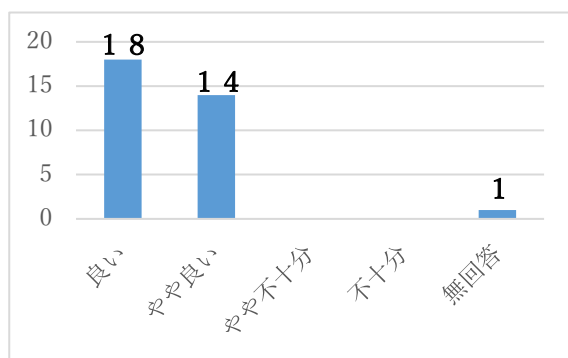
1 本校の教育目標は、児童生徒の実態や保護者の願いを踏まえたものになっている。



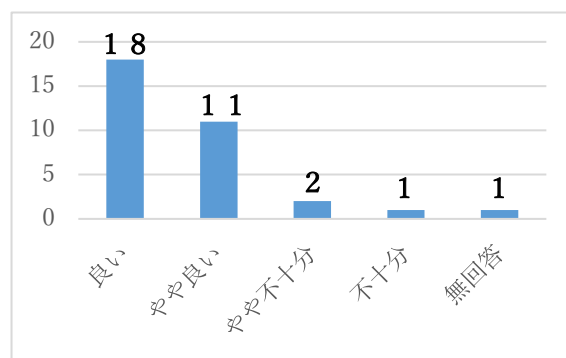
2 本校では、学校の教育方針や教育活動などについて、PTA 総会や保護者面談等で説明している。



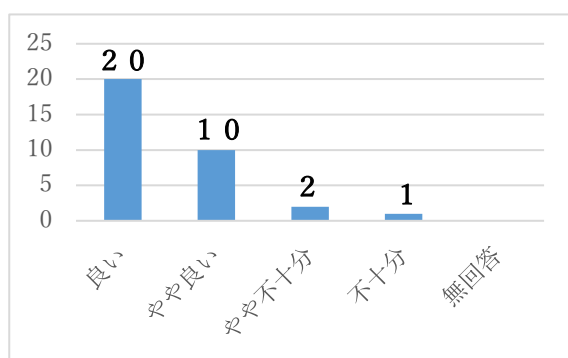
3 本校では、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育を行うように努めている。



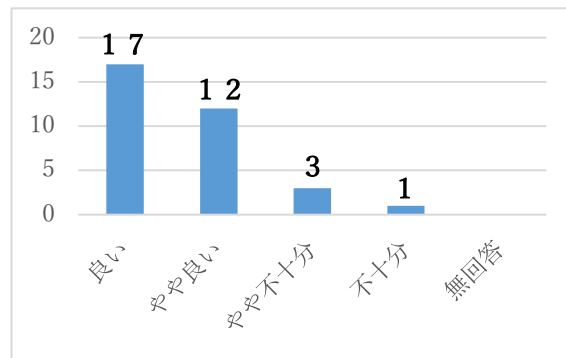
4 本校では、子どもの障害の状態や発達の程度等を把握している。



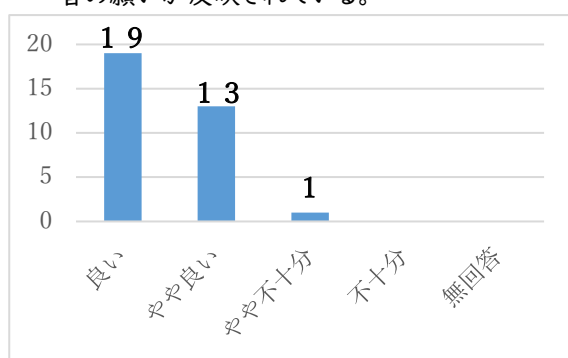
5 本校では、一人一人の子どもたちに応じた指導の工夫がされている。



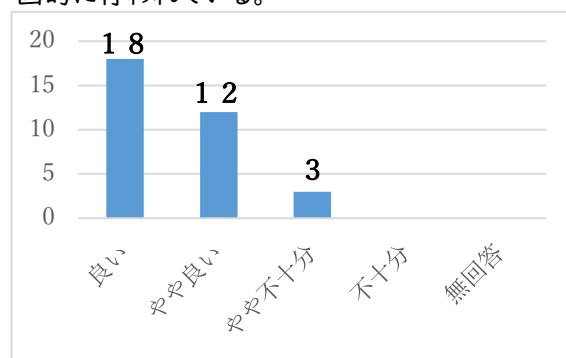
6 本校では、授業の中でコンピュータ等の情報機器が活用されている。



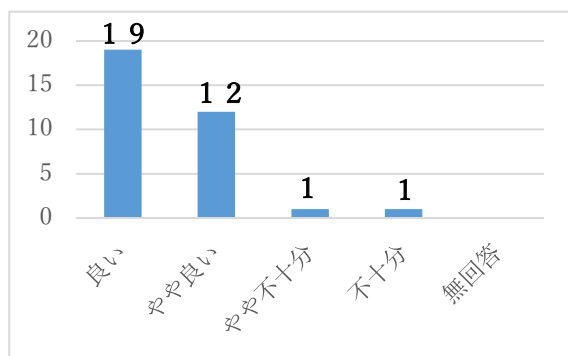
7 本校では、個別の教育支援計画に本人や保護者の願いが反映されている。



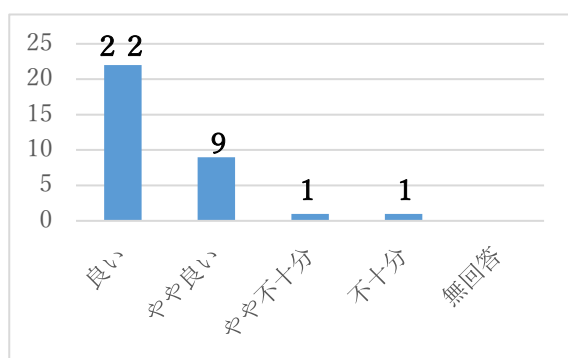
8 本校では、子どもの将来に向け進路指導が計画的に行われている。



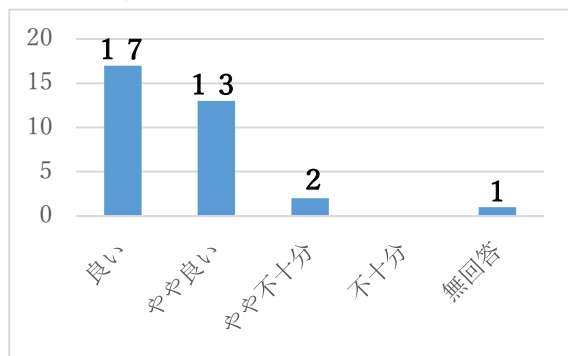
9 本校では、教育に係る様々な情報が提供されている。



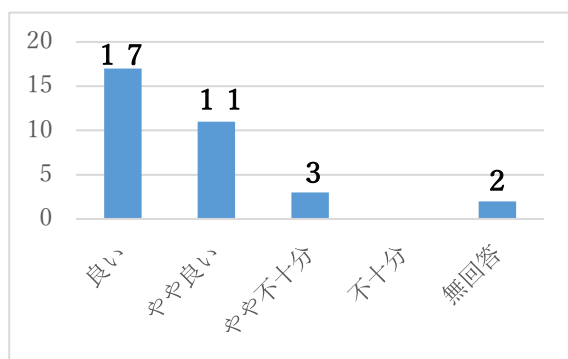
11 本校では、子どもの学習状況を適切に評価し、通知表の工夫がなされている。



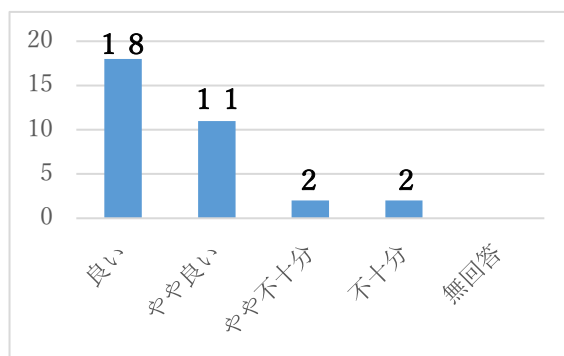
13 本校では、社会体験活動など、社会自立に向けた指導を行っている。



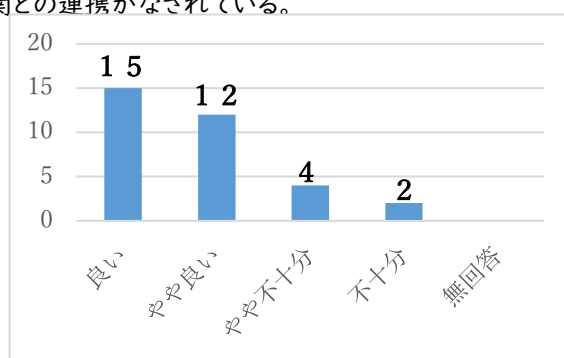
15 本校では、交流及び共同学習が行われている。



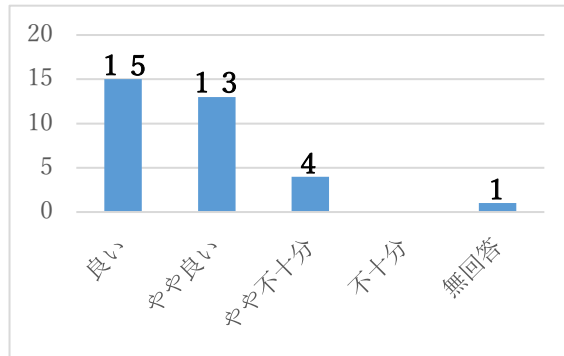
10 本校では、子どもの指導や心身の健康について適切な相談が行われている。



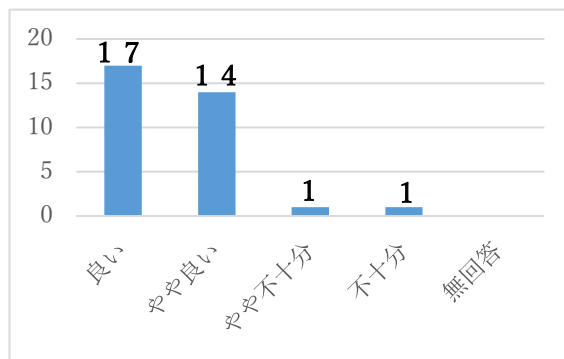
12 本校では、子どものために医療、福祉等関係機関との連携がなされている。



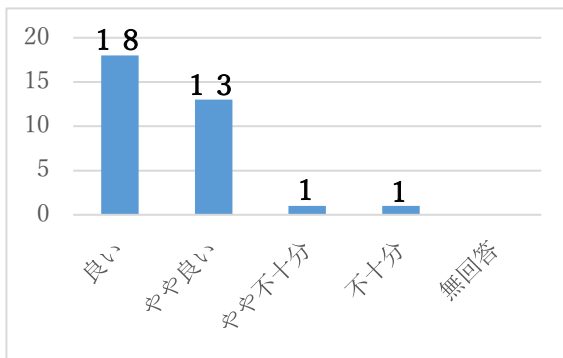
14 本校では、人権を学ぶ活動に取り組んでいる。



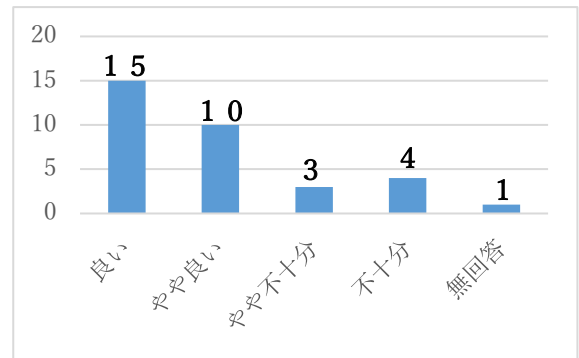
16 本校では、子どもたちの安心・安全な学習環境整備がなされている。



17 本校では、保護者と教員が連携した PTA 活動が充実している。



18 本校は、地域に開かれた特別支援学校である。



19 学校をさらによくするためのご意見等(自由記述)

- (1) 時代に合わせた考え方・取り組み方を、もっともっと実現して欲しいです。親の考え、障がい児の人生、何もかもが色々と変わってきている中で、泡瀬だけなのか、特別支援学校という場所だからなのか、昔の考え・昔の流れを崩さない姿勢が凄く違和感です。もっと地域の(自宅で使っている訪看やヘルパー)機関とも連携していける部分は連携して、「誰もが」学校に行く事が可能なように考えてほしいです。通学・訪問どちらの付き添いの仕方も、もっときちんと考えてほしいです。変わってる部分もあるかと思いますが、学校のルールが独自であるならば、付き添い方について早めに考え直してほしいです。「特別支援」とはなんなのか。国や学校側の考えだけでなく、親の考えも反映していける学校になってほしいです。
- (2) 小学校も選ばれる時代がくる もっと地域へ降りていき特別支援学校の強みや弱さへの強化を求められると思う。泡瀬特別支援学校で良かったと思える柔軟かつ子どもファーストな運営を願います
- (3) 訪問学級生徒がスクーリング時、医療的ケア(痰吸引、注入、薬、呼吸器、胃ろうの使用)して、なれている看護師が付き添い、授業をうけれるようにできないでしょうか?(母親は看護師ではないです。)
- (4) 看護師さんや先生たちは、子ども達や親のフォローもすごくしてくれてありがたいです。学校に通いやすく嬉しいです。

【結果と考察】

- 1 評価対象は、保護者86名のうち回答は33名であり、回答率38.3%となっている。昨年度は「良い、やや良い」の8割が評価された項目を「良好な評価」として捉えたが、今年はさらによりよく学校を変えていくために、33名を100%と考えた際に「良い、やや良い」の9割が評価された項目を「良好な評価」とした。
- 2 全18項目中、8項目については、良好な評価(良い、やや良い)が31名以上であった。
- 3 全18項目中、10項目については、改善が必要な評価(不十分、やや不十分、無回答)が3名以上であった。
 - (1) 項目1「教育目標は児童生徒の実態や保護者の願いを踏まえたものになっているか」については、アンケート調査(学校評価等)や保護者面談で保護者のニーズや意見(現状の課題や改善点)の把握に努めていきたい。
 - (2) 項目4「障害の状態や発達の程度等の把握」については、保護者との日々の情報交換や連絡帳、面談を通じた実態把握、職員間の情報共有、個別の教育支援計画等の引継ぎ等を丁寧に継続していきたい。
 - (3) 項目5「子どもたちの実態に応じた指導の工夫」については、個別ファイルの確認や前担任からの聞き取り、そして、日々の教育実践での実態把握をもとに、それぞれの子どもたちの興味やニーズに応じた学習計画を立て、支援機器も活用しながら子どもたちのモチベーションを高めていく工夫を行っていきたい。

- (4) 項目6の「情報機器の活用」については、引き続き児童生徒個々の実態に応じた ICT 教育の充実を推進していくために、iPadにおけるアプリの活用や視線入力等も活用しながら ICT 教育の充実を図っていききたい。
 - (5) 項目8の「進路指導」については、計画的な進路指導を展開し進路便り(路(みち))やホームページの活用、学習会・説明会などを実施しているが、保護者の理解啓発について改めて検討していききたい。
 - (6) 項目10の「子どもの指導や心身の健康について適切な相談」については、学級における日々の保護者の相談や必要に応じた教育相談、保健指導への引継ぎ等、相談体制の充実を図りたい。
 - (7) 項目12の「子どものための医療・福祉等関係機関との連携」については、月1回の沖縄中部療育医療センターとの医療・教育連携会議の開催や支援部を中心とする福祉機関との連携を図っている所である。しかし、連携の未だ足りない部分においては、保護者や子ども達のニーズの声を個人面談等で拾い、迅速かつ適切な対応を図っていききたい。
 - (8) 項目14の「人権を学ぶ活動」については、特別活動や道徳の授業の中で、「子どもの権利条約」をはじめ、人権に関する知識や価値観の指導の充実をさらに図っていききたい。また、いじめ防止委員会でのスクールカウンセラーからの人権に関する助言等をもとに、生徒指導部を中心とした人権における校内研修の実施等も充実していききたい。
 - (9) 項目15の「交流及び共同学習」については、実施機会の拡充を図るために、対面及びオンラインによるハイブリッド型の交流を展開することで、地理的な制約を超えた学びの機会を提供していききたい。
 - (10) 項目18の「地域に開かれた学校」については、保護者や地域への情報発信を強化しながら、さらに連携を深める手立てを検討していききたい。
- 4 自由記述においては、「時代に合わせた考え方・取り組み方の実現」についての要望や「子どもファーストな運営」、「訪問学級児童生徒のスクーリング時における看護師対応による授業受け入れ」などの課題についてご意見がある。「時代に合わせた考え方・取り組み方の実現」や「訪問学級児童生徒のスクーリング時における看護師対応による授業受け入れ」などの課題については、県教育委員会との調整や学校としての今後の方針をまとめ、保護者と意見交換会の場を設けていききたい。また、「子どもファーストな運営」についても更なる充実を図っていききたい。合わせて、保護者からの良好な評価の声を励みに、引き続き学校と保護者との連携充実を図っていききたい。